

## 「援助交際」状況に関する考察

○ 深谷和子（東京学芸大学）

○ 三枝恵子（埼玉県立松山高等学校）

## 1. 目的

本報告は、高校生の規範感覚が崩れていると言われている現状を、特に「援助交際」問題を取り上げながら、その実態と背景を探ることを目的に調査分析したものである。

## 2. 調査概要

サンプルは、首都圏の公立高校生1772名、調査時期は1997年6月～7月。調査方法は学校通しの質問紙法により実施。

## 3. 結果

女子の結果を中心に見ていくことにする。

①「ルーズソックスをはきたい（9割）、ポケベルやPHSを持ちたい（8割）、茶髪やパーマをかけたい・ピアスやリングをつけたい・口紅やファンデをつけたい（いずれも7割）、制服を超ミニスカートにしたい（6割）、シャネルなどのブランドの口紅や化粧品を持ちたい（5割）」と、こうしたファッションへの欲求が援助交際問題の背景にあると推察される。さらに、1ヶ月の小遣いが「2万～5万円未満」18%、「5万円以上」をあわせ23%と、高校生の活発な消費欲求も影響を与えていると考えられる。

②「テレクラに1度以上電話したことがある」生徒は35%、「伝言ダイヤルに電話を入れたことがある」11%と、女子高校生の中には無視できない割合で、大人の危ない文化に接触している層がある。

## ③ 逸脱行為の体験（表1）

逸脱行為を「度々」している者は少ないが、一度以上したことがある者の割合は、無視できるほど少なくない。

## ④ 逸脱行為の受け止め方（表2）

「援助交際をしたい」と伝言ダイヤルに入れることや、実際に援助交際をしたことが見つかった「退学」の措置がとられたら「まあ当然」とする者は、4割弱でしかない。自分たちのどんな逸脱行為にも、学校は温情主義を持って望むべきだと考えているのだろうか。

表1 逸脱行為の体験

(%)

|                     | 女子   |        |            |        |
|---------------------|------|--------|------------|--------|
|                     | よくある | ときどきある | 今までに1、2回ある | まったくない |
| 1. 友だち同士で酒を飲む       | 14.9 | 31.3   | 27.1       | 26.7   |
| 2. ナンパしたりされたりする     | 5.1  | 23.1   | 30.8       | 41.0   |
| 3. アダルトビデオを見る       | 1.4  | 5.2    | 26.5       | 66.9   |
| 4. たばこを吸う           | 7.9  | 5.5    | 16.2       | 70.4   |
| 5. パチンコをする          | 1.2  | 2.1    | 14.7       | 82.0   |
| 6. 無断で外泊する          | 1.6  | 5.0    | 10.5       | 82.9   |
| 7. 援助交際をする          | 0.5  | 1.0    | 2.9        | 95.6   |
| 8. テレホンクラブのアルバイトをする | 0.3  | 0.5    | 0.9        | 98.3   |

表2 逸脱行為の受け止め方

(次のような校則があったらどう思うか)

(%)

|   | 女子   |       |       |
|---|------|-------|-------|
|   | まあ当然 | 少し難しい | 厳しすぎる |
| 1. 放課後、生徒だけでファースト店やファミリーレストランに入ってはいけない    | 0.2  | 3.9   | 95.9  |
| 2. 髪を茶色に染めてはいけない                          | 13.6 | 42.2  | 44.2  |
| 3. 女子高校生が妊娠したのがわかったら、退学にする                | 18.8 | 40.3  | 40.9  |
| 4. ファッションホテルやラブホテルに入ったのが見つかったら退学にする       | 18.3 | 43.1  | 38.6  |
| 5. 伝言ダイヤルに「5万円で援助交際したい」と入れているのがわかったら退学にする | 35.1 | 42.0  | 22.9  |
| 6. 援助交際が見つかったら退学にする                       | 37.6 | 40.9  | 21.5  |

## ⑥援助交際をめぐって

表3から表7は高校生が援助交際をどのように捉えているかである。平成8年度青少年健全育成基本調査（東京都生活文化局）で報告された、「援助交際をする高校生の割合が4%」の数値を今回調査対象となった高校生に尋ねた。「もっと多いと思う」が4割。学校ランクにより顕著な差が見られ、学校の雰囲気は推測できる（表3）。

表3 東京都の調査で高校生の援助交際は4%という数値について (%)

|    | もっと多いと思う | この程度だと思う | もっと少ないと思う |
|----|----------|----------|-----------|
| 女子 | 39.6     | 49.6     | 10.8      |
| 男子 | 40.4     | 49.8     | 9.8       |

表4 援助交際している中で、「セックスなしに食事などにつきあうだけ」のケースの割合 (%)

|                           | 女子   | 男子   |
|---------------------------|------|------|
| 1. ほとんどの子が、セックスまでしていると思う  | 13.0 | 22.1 |
| 2. 6, 7割の子が、セックスまでしていると思う | 25.4 | 23.3 |
| 3. 半分くらいの子が、セックスまでしていると思う | 36.8 | 29.4 |
| 4. セックスしない子の方が多いと思う       | 24.8 | 25.2 |

表5 「援助交際をしている人は、誰にも迷惑をかけていないし、本人も相手もいいのだから非難すべきでない」と言う意見について (%)

|    | とてもそう思う | わりとそう思う | 少しそう思う | あまりそう思わない | 全然そう思わない |
|----|---------|---------|--------|-----------|----------|
| 女子 | 6.1     | 19.4    | 31.8   | 26.9      | 15.8     |
| 男子 | 12.2    | 15.6    | 30.4   | 24.4      | 17.4     |

表6 援助交際をしている人はクラスにいると思うか (%)

|                    | 女子   | 男子   |
|--------------------|------|------|
| 1. 全然いないと思う        | 57.7 | 33.3 |
| 2. もしかしたら、いるかも知れない | 37.9 | 56.5 |
| 3. 実際にいる           | 4.4  | 10.2 |

表7 将来、子どもが援助交際をしていることを知ったときどう思うか (%)

|                          | 女子   | 男子   |
|--------------------------|------|------|
| 1. 厳しく叱って、(殴ってでも) やめさせる  | 66.5 | 57.6 |
| 2. 注意するが、やめるかどうかは子どもに任せる | 32.1 | 38.3 |
| 3. わかっていても、何も言わない        | 1.4  | 4.1  |

表4は、援助交際とはセックスを伴う行為なのか尋ねた。「ほとんどの子がセックスまでしている」と答えた者は13%、「半分以上の子がセックスまでしている」とする者が75%で、「セックスなしの子の方が多い」は25%に過ぎず、高校生にとって「援助交際とはセックスの伴う行為」と考えていることがわかる。

次に、援助交際の許容性であるが、表5によれば、「誰にも迷惑をかけていないのだから、非難すべきでない」と考える者が5割を超え、「全然そう思わない」と明確に否定する者は16%に過ぎない。さらに、「クラスに援助交際をしている人がいるか」を尋ねた結果では、「全然いない」と否定する者は6割にも満たない。学校間格差の関係をみると、「全然いない」とする割合は、上位校7割、下位校では3割弱と学校差が顕著である（表6）。

そして「将来、自分の子どもが援助交際をしたならばどのような態度をとるか」の設問では、「厳しく叱って(殴ってでも) やめさせる」という毅然とした態度をとろうとする者は7割未満である（表7）。高校生にとって、援助交際は身近な行為であり、それほど嫌悪感を持つことではないようである。

⑥親の態度

援助交際に対する意識や態度の背景として親の態度を、表9から10に掲げた。表8は、子どもの逸脱行為に対して、「自分の親がどのくらい、厳しく臨むと思うか」である。「テレクラでのアルバイト、援助交際」に対しては、女子では9割近い者が「親はとて厳しく叱るだろう」と答えている。男子の場合はかなり低くなるが、5割強がそう答えている。この2項目については、さすがに「何も言わない親」は極めて少ない。

しかし、表で目を引くのは、「つきあっている相手とセックスする」の項目で、女子で57%、男子で72%が、「親は、あまり、全然叱らないだろう」と答えている。つきあっている相手といえども、高校生の「性体験」に対して、今の親はそれほど許容的になっているのだろうか。今や性は高校生の意識の中で、特別な行為でなくなってきたのかもしれない。

また、表9は、「自分の親は子どもが逸脱行為（援助交際）をした場合には、それに気づくと思うか」である。「どんなに気をつけても、すぐ親に分かってしまうだろう」とする者は、女子で4割、男子で3割でしかない。「気がつかないだろう」とする者はさすがに少ないが、残りの者は、即ち「親の目をごまかせようだ」と考える者が、5割前後もいることが分かる。親との距離が遠くなってきているのだろうか。

そして表10では、子どもの援助交際を知ったときの親の態度の推測である。「親は殴ってでもやめさせるだろう」とする者は、女子はさすがに79%いるが、男子は52%。即ち、「注意はするが、それ以上きつく出ないだろう」を合わせると、女子は22%、男子は48%。無視できるほど少なくはない。

表8 子どもの逸脱行為に対する親の態度 (%)

|                     | 女子       |          |         |              | 男子       |          |         |              |
|---------------------|----------|----------|---------|--------------|----------|----------|---------|--------------|
|                     | とても厳しく叱る | わりと厳しく叱る | あまり叱らない | 何も言わない(叱らない) | とても厳しく叱る | わりと厳しく叱る | あまり叱らない | 何も言わない(叱らない) |
| 1. テレホンクラブのアルバイトする  | 87.0     | 9.6      | 1.7     | 1.7          | 56.4     | 22.7     | 9.8     | 11.1         |
| 2. 援助交際をする          | 85.7     | 9.5      | 2.7     | 2.1          | 54.4     | 21.3     | 12.1    | 12.2         |
| 3. 無断で外泊する          | 65.1     | 24.4     | 8.1     | 2.4          | 28.0     | 37.8     | 25.1    | 9.1          |
| 4. たばこを吸う           | 58.5     | 23.7     | 12.8    | 5.0          | 33.1     | 24.2     | 26.7    | 16.0         |
| 5. パチンコをする          | 30.3     | 23.0     | 32.5    | 14.2         | 17.6     | 23.3     | 35.5    | 23.6         |
| 6. つきあっている相手とセックスする | 22.9     | 20.1     | 31.6    | 25.4         | 13.4     | 14.4     | 29.9    | 42.3         |
| 7. 友だち同士で酒を飲む       | 18.4     | 24.1     | 37.0    | 20.5         | 13.3     | 20.9     | 37.6    | 28.2         |

表9 あなたの親は、あなたが「援助交際」をしていたら、すぐ分かると思うか

(%)

|                            | 女子   | 男子   |
|----------------------------|------|------|
| 1. どんなに気をつけても、すぐ分かってしまうだろう | 39.9 | 32.4 |
| 2. うまくやれば、気がつかないかも知れない     | 45.6 | 51.4 |
| 3. 子どもが隠せば、気がつかないだろう       | 14.5 | 16.2 |

表10 あなたの親は、あなたが「援助交際」をしていることを知ったら、どう思うと思うか

(%)

|                          | 女子   | 男子   |
|--------------------------|------|------|
| 1. 黙っている                 | 2.8  | 7.7  |
| 2. 注意はするが、それ以上きつくは出ないだろう | 18.6 | 40.4 |
| 3. 殴ってでも、やめさせるだろう        | 78.6 | 51.9 |

⑦援助交際と自分との距離

表11は、援助交際の可能性を尋ねた。「もしかするとするだろう」は7%であるが、「多分しないだろう」を合わせ3割の者がその可能性を否定しない現状である。具体的場面を設定した項目で見ると、「食事やデートだけの援助交際」は「すぐ断る」と明確に否定する者は4割に過ぎず、「多分承知する」10%、「少し考えてから」をあわせるとセックスの伴わない援助交際を承諾する者は3割に達する(表12)。「セックスの伴う援助交際」は、さすがに85%が「すぐ断る」と否定しているが、それでも15%の者は、その場の雰囲気次第で援助交際をする可能性を秘めており危うい現状がうかがえる。

表11 自分も「援助交際をするかもしれない」と思うか (%)

| もしかしたらするだろう | 多分しないだろう | 絶対しない |
|-------------|----------|-------|
| 6.7         | 22.9     | 70.4  |

表12 仲のいい友だちから「レストランで、オジサンと2人で食事するだけで、1万円になるけど、どう?」と言われたらどうするか (%)

|                      |      |
|----------------------|------|
| 1. 多分、承知する           | 9.8  |
| 2. 少し考えるが、承知するかもしれない | 17.6 |
| 3. 少し考えるが、断るだろう      | 29.2 |
| 4. すぐ断る              | 43.4 |

表13 話し相手だけの約束で食事した後、「ホテルに行ってくれたら、もう5万円、お小遣いをあげる」といわれたらどうするか (%)

|                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 1. そうする                         | 0.5  |
| 2. 相手が好みのタイプなら、そうする(タイプでなければ断る) | 9.6  |
| 3. その場のムードで決める。                 | 4.4  |
| 4. すぐ断る                         | 85.5 |

4. まとめ(女子生徒を中心に)

①性は高校生にとって、意識のレベルでは(または行為のレベルでも)、特別の出来事ではなくなってきた。なお援助交際体験率は、昨年の東京都生活文化局の調査同様、本調査でも4.4%であった。しかし、行為率は低くても、こうした性の商品化に対する忌避感情が、全体に薄れてきている。

②その背景には、性の規範感覚の崩れだけでなく、親のコントロール力の低下、友人との希薄な関係、大人のおしゃれや流行(金のかかるファッション)への関心、などがあると考えられる。

③「自分は絶対援助交際をしない」と言い切る者は7割である(表11)。この数字を大きいとみるか小さいとみるか。

さらに、友だちが援助交際をした場合は、「絶対にやめさせる」6割、その友だちとのつきあいを「やめる」0.7%、「少し距離をおく」を合わせ2割、逆に「今まで通りにつきあう」が8割を占め、友だちとの関係が希薄なのか、友だちが援助交際することへの忌避感情はあまり見られない(表14, 15)。

そして将来、「結婚相手に、高校生の時、援助交際していたことがわかってしまったとき」、援助交際をしていたことが結婚の障害になると考える者は4割に過ぎず、「過去のことだから問題にしない」が6割と相手にも援助交際を容認する態度を期待している。(表16)。

表14 仲のいい友だち(女の子)が、「(セックスもする)援助交際をしている」と打ち明けたらどうするか (%)

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 1. 絶対やめさせる                     | 60.0 |
| 2. 嫌だけれど、何も言わない                | 13.5 |
| 3. その人の自由だと思う(それほど悪いことだとは思わない) | 28.5 |

表15 その友だちとのつきあいをどうするか (%)

|                   |      |
|-------------------|------|
| 1. 今まで通り、つきあう     | 78.9 |
| 2. 少し距離をおいて、つきあう  | 20.4 |
| 3. その子とつきあうのを、やめる | 0.7  |

表16 高校生の時のある期間、(セックスもする)援助交際をしていた女の子について将来結婚しようとした時に、相手の男性にそれが分かっていたら、その相手との結婚をどう思うか (%)

|                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 1. 愛していれば、過去のことには問題にしないだろう       | 58.3 |
| 2. 結婚しても、2人の間はうまくいかなくなる可能性が高いだろう | 36.9 |
| 3. 愛していても、結婚をやめると思う              | 6.8  |

④女子高校生を、総援助交際予備群としてみることはむろん誤りだが、しかし、ある割合で心理的準備状態があって、引き金要因が働けばそれを容易に行為に移す層がある。こうした準備状態には、個人差と学校差が見られる。

⑤高校生の対異性行動の活発化に対して、社会的な理解が必要であるのは無論だが、そうした理解とは別に、性を商品化する行為の意味を、彼らにどう理解させればいいのか。

(尚、詳しい資料は当日配布する。)